

令和3年度「特色ある学校づくり事業」実践事例



地域・学校の環境

本校区は、400年以上の歴史を持つ伝統ある窯業の里であり、三川内山・江永・木原の三皿山を中心として、多くの陶工士が、「三川内焼」の生産にあたっている。陶工士たちは、平戸藩御用窯として育まれてきた窯業文化を受け継ぎ、伝統工芸品である「唐子絵・花鳥山水・透かし彫」等の「三川内焼」の作陶と開発に励んでいる。

豊かな自然にも恵まれ、歴史と伝統を受け継ぐ、すばらしい教育環境に学校がある。

「あったか三川内」を合言葉に、家族的な温かい雰囲気の中で、素直で純朴な児童が、仲よく健やかに学校生活を送っている。地域住民の学校教育に対する期待と関心は非常に高く、学校の教育活動に対し、大変積極的に、熱心な協力や支援をいただいている。

地域の関係機関・団体と協力・連携を図りながら、学校・家庭・地域が一体となって、様々な取組や諸活動を展開し、「地域ぐるみでの子育て」「ふるさと三川内を愛する絆づくり」の推進に取り組んでいる。

昨年度から続くコロナ禍により、当初の予定通りにいかなかったことも多々あったが、地域住民・家庭の理解と協力もあり、内容を削減したり、参加人数を減らしたりして、可能な限りの取組を行った。

テーマ 「郷土を知り、郷土を愛する心豊かな児童を育てる」

目的

- 郷土の伝統産業である窯業文化を学ぶ学習
- 郷土の豊かな自然環境を知り、自然の浄化作用を学ぶ環境学習
- 地域の人々とのかかわりを通じた福祉学習
- 豊かな人間性をはぐくむ基礎となる学力の充実
- 学校を拠点とした地域教育力活用による「開かれた学校」づくり



実践内容

1 「交流」体験活動…地域の方々とふれ合う活動に、積極的に取り組んだ。

- ① 自然体験学習…3年生と、6年生のグループは、小森川の水生生物を調べ、追究する課題を設定した。3年生は調べた結果を新聞にまとめることができた。6年生は年間を通じて課題を設定し、数回の調査活動を行った。観察するために持ち帰って飼育し、生態を調べ続けることができた。どちらの学年とも、自分たちが住んでいる三川内の自然の豊かさを再発見し、郷土に愛着をもつことにつながった。



6年生は、教室と観察池で、今も観察を継続中です。

- ② 三川内っ子ふれあいタイム……………11月25日実施。今年度も、規模を縮小し、午前中のみ、学年活動に内容を絞って実施した。来賓24名、保護者のべ140名。健全育成会より14名の地域講師の協力を得ての活動であった。各学年の内容は以下のとおりである。

<1・2年生>：昔遊び

はまぜん投げ、コマ回し、竹とんぼ、竹馬、紙飛行機、お手玉・あやとり・けん玉の各ブースをグループごとに体験した。「竹とんぼ」「竹馬」は子どもたちに特に好評で、習熟を重ねるたびに上達していったことで、「やればできる」という自己有用感につながった。

今回は、竹とんぼに加え、竹馬まで健全育成会の皆様が手作りしてくださった。地域の皆様のご厚意で学校が成り立っていることを実感した。

<3年生>：しめ縄リース作り

親子でリース作りに取り組んだ。事前に様々な飾りを個人で準備しておき、当日は様々

なオリジナルリースが完成した。3名の達人の技に魅了され、更に地域への愛着を増した時間となった。

<4年生> : 焼き物絵付け体験

地元の窯元様の指導を受け、マグカップ・茶碗・皿の絵付けを行った。まさに三川内ならではの活動であり、今後も継続していくべきものである。親子でのふれあいの時間でもあったが、親子共に大変集中して絵付けに取り組んでいる姿が印象的だった。自分たちが絵付けをした焼き物が戻ってきたときの嬉しそうな表情からも、「三川内焼き」に対する愛着が更に増したことがうかがえた。

<5年生> : おにぎり・豚汁作り

田植え、稲刈りと地域の方の協力を得て経験し、そのお米を使つての調理を行った。夏には味噌づくりの指導も受け、自分たちで作った味噌を用いた。稲作に関わってくださった指導者を招待し、自作の料理をふるまった。子どもたちの誇らしげな表情からは、充実感がうかがえた。また、米と味噌は、来校した保護者に販売したが、数分で完売した。

<6年生> : 「三川内の良さを伝えよう」(調べてきたことの発表)

事前に学習してきたことの発表を行った。「自然」「名物」「名所」の3つのグループに分かれ、調べ学習を続けてきた。焼きそば、ハンバーガー、チャーハンは実際に作り、試食も行った。今年度は、町内会長様を中心に、自作の招待状を届け、来賓を招待した。参観者の「おいしい」の声に自信を深め、自己肯定感が高まった様子うかがえた。

従来行ってきた「遊びの達人塾」を、1・2年生の「昔遊び」に吸収合併した形で行う、今回の形式にして2年目である。特に高学年児童の様子を見ると、「いかにしてお客様を呼び込むか」という工夫が随所に見られた。相手意識の高まりがうかがえる。どの学年も地域の方と触れ合うことができ、また、自己の成長を自覚することもでき、大変充実した時間となった。



竹馬は大人気。



こま回しは難しい。



あっという間に仕上がります。



郷土の誇り、三川内焼。



5年生のおもてなし。



お客様を呼び込む工夫が。

- ③ 学校図書ボランティア「WAKU WAKU おはなし隊」…毎週水曜日 8:25～8:45 各学級へ入り、読み語りをしていただいている。紙芝居形式があったり、時折子どもたちに質問を投げかけたりと、様々な工夫により、本の中の世界に導いてくださっている。子どもたちは、水曜日を楽しみにしており、読書に親しむ児童が増えている。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な回数を行うことができなかったのが大変残念である。



食い入るように見つめる子どもたち。本の世界が大好きになりました。

2 「ふるさと三川内」体験探究活動

- ① 三川内の伝統工芸である三川内焼について学年を越えて探究。課題を見つけ、調べ、まとめる活動を通して、ふるさと三川内のよさを改めて実感する学びとなる。今年度は、前述の4年生絵付け体験を行った。また、6年生のはグループの探究テーマとして三川内焼を選び、地元の窯元様まで足を運び、詳しい説明を受けた。4年生のふれあい活動の時点から、6年生では主体的な学習へと学びが高まっている。

3 「栽培・収穫」体験活動…児童は豊かな自然の恵みを味わい、地域の「達人・名人」からの、いのちの尊さや生産の大切さについて学んだ。

- ① 校区内水田での米作り体験活動…5年生が、地域の「米作り名人」の方々に熱心に御指導いただき、田植え・稲刈りまでの米作りを体験することができた。今年度は、学級役員さんとの連携を図り、稲刈りを「学級レクリエーション」を兼ねて実施した。ご家庭で米作りを行っている方も多く、会話の中で様々なことを伝えてくださっていた。落ち穂を丁寧に拾う子どもたちの様子からは、米作りの大変さ、感謝の気持ちが感じられた。
- ② 学校園でのサツマイモ栽培活動…1年生～3年生を中心に、地域の「芋づくり名人」の方々に御指導いただき、芋さしから芋掘りまでを体験し、収穫の喜びを味わうことができた。



リズムよく進みますが…



やはりこうなります。



収穫の喜びは年齢関係なしです。



大きなお芋がとれました。土の中で、大切な命が育っています。

4 「おもてなしの心」「かかわり合い」で心豊かに

- ① 手作りのおにぎりとお汁…5年生による11月のふれあいタイムでの取組。児童が作った米と味噌を使って、心を込めて「おにぎりとお汁」を作り、米作りから、脱穀までを指導していただいた地域講師を、感謝の気持ちで「おもてなし」した。本来ならばたくさんの地域の方をお招きし、感謝の気持ちを伝えたかったのだが、参加人数を制限したことにより、講師のみを招待した。
- ② 異学年とのかかわり…毎日の集団登校や、「花いっぱい運動」「三川内スポーツ」など、異学年と関わる活動を実施することで、相手の気持ちを察し、考えることができる豊かな心を育てている。今年度も、「花いっぱい運動」で使用する花苗を、5・6年生が種から育てた。また、「三川内スポーツ」は、子どもたちの中に定着し、誘い合って参加している。会の企画・運営のやり方にも慣れ、高学年の子どもたちが主体的に運営することができるようになってきている。



三川内スポーツはすっかり定着。様々なスポーツを通じて体力づくり&多学年のふれあい。

三川内小学校では
「あったか三川内」を合言葉に
三川内の地に足を着け、三川内を愛する
心豊かな児童を育てています！